

アパレル ゼロ・ウェイスト 認証制度

審査結果通知書

登録番号：AP_1 店名：パタゴニア横浜・関内ストア
所在地：神奈川県横浜市中区日本大通18 KRCビル1下
発行日：2019年10月2日 有効期限：2020年10月1日
審査機関：NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー

認証要件：

1. ゼロ・ウェイスト活動に必要な知識を備えており、そのための人材育成を行っている — OK
2. 適切なおごみの分別、資源化を行っている — OK
3. ゼロ・ウェイスト活動を継続的に発展させていくための計画が組まれている — OK



認証

配送時は繰り返し使うことのできる資材やより簡易的な包装とすることでごみの発生を抑制している。

店舗間の配送には使用済み包装材を繰り返し使用している。店舗への仕入れ時に発生する梱包材の減量・簡易包装化を働きかけ実現させている。お客様への配送時の包装はギフトラッピングも含め全て2重以下である。



店がお客様に提供する“サービス品”から使い捨て品を出さない、もしくは削減に取り組んでいる。

傘袋や雨天時の手提げ袋カバーなどは提供していない。ショップバックはデポジット制で回収しリサイクルしている。ギフトラッピングはリユース可能な袋を使用している。カタログやフライヤーなど使い捨てにならないオプションが増えるとなお良い。



日常の業務で使用する紙類、備品の削減や代替品の使用により、ごみの発生を抑制している。

紙媒体の業務日誌を廃止したり業務におけるペーパーレスに取り組んでいる。リユースできるフェイスカバーを使用している。業務上の使い捨て品の代替に全社的に取り組めるよう働きかけるとなお良い。



認証

事業者及び従業員がゼロ・ウェイストについて理解し、自身が出すごみを削減していくために具体的な取り組みをしている

スタッフルームからごみ箱を無くし、スタッフ自身が自分のごみは持ち帰る仕組みにしている。店舗で出るごみを可視化しスタッフが把握できている。マイボトルや弁当箱などをスタッフが持参し使い捨て品を使わない行動が浸透している。



認証

そのまま放置するとごみになるような未活用資源や、修理・リサイクル可能な資材を店舗に取り入れている。

店舗の壁、テーブルなどの木材は近隣地域の廃木を製材し使用している。床材も石材の碎片を使用している。レンガはリユース品である。また、店内什器は修理可能なものである。



認証

リサイクル素材やアップサイクルを活かした製品を積極的に店舗で取り扱っている。

ポリエステル、ナイロン、コットン、ウール、ダウンなど多くの製品でリサイクル素材の使用を実現しており、お客様に情報発信をしている。全社としてリサイクル素材100%を目指している。



認証

長く使えるように製品の修理、メンテナンスできるサービスが整っている

お客様から製品を預かり修理サービスを提供している。簡易な修理については店頭での対応や修理パーツの提供・販売を行っている。メンテナンス方法についての案内も購入時に行っている。



認証

製品が使い捨てにならないような仕組みを取り入れている。

使用済み製品は店頭で回収し、使用可能なものは直営のアウトレット店舗にて販売している。使用不可のものについては適切にリサイクルしている。不良在庫についても割引販売を行う仕組みがある。



認証

利用者がゼロ・ウェイストについて知り、取り組みについて参加できる仕掛けがある。

「ゼロ・ウェイスト・マーケット」を店舗スペースで開催し、お客様に量り売りなどの体験を提供している。店内スペースやSNSでゼロ・ウェイストへの取り組み方の情報発信を行っている。

認証要件を満たさない行為を確認した場合は、期間中であっても本認証を取り消す場合があります。

お問合せ：NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー 徳島県勝浦郡上勝町大字福原字下日浦94-4 (0885)44-6080

©Zero Waste Academy, Japan

アパレル ゼロ・ウェイスト認証制度 審査結果詳細



特に評価が高いポイント



事業者及び従業員がゼロ・ウェイストについて理解し、自身が出すごみを削減していくために具体的な取り組みをしている（獲得ポイント 3/3ポイント）

店舗内からスタッフ用のごみ箱を全廃することで、スタッフのごみに対する意識向上を促し、ごみの発生抑制やマイボトル・マイ箸等の使用につなげている。



長く使えるように製品の修理、メンテナンスできるサービスが整っている（獲得ポイント 3/3ポイント）

製品のリペアサービスを実施するだけでなく、お客様が製品を長く使用することを促進する取り組みを行っている。

ゼロ・ウェイストをさらに推進するには…

- 店舗内でのスタッフ用ごみ箱の全廃など、各スタッフが自らゼロ・ウェイストを考え、行動することを促す取り組みを引き続き実施し、他店にも経験を共有する。
- お客様と共にゼロ・ウェイストに取り組めるようなキャンペーンやイベントを実施し、お客様自身も積極的にゼロ・ウェイストに取り組めるきっかけづくりを行う。
- スワップミートやアップサイクルなど、使用済み製品を再活用できるイベントなどの企画を主催する。
- 1店舗のみでは削減に取り組むづらい全社的な使用品や制度について、代替品や制度への切り替えを働きかける。